

鉄平君が来た！

C棟のゆう子さんのお母さんが12月13日に亡くなりました。急性肺炎、体調を崩し入院と聞いて10日あまり、突然の死でした。ゆう子さんとお母さんは大の仲良し。私とはゆう子さんが出会ったのは、彼女が上菅田養護学校（現、上菅田特別支援学校）高等部を卒業し、私たちが始めた小さな作業所朋に通いだしてですから、今から30年近く前になります。当然私もお母さんとは仲良し、ゆう子さんはそのままその後できた訪問の家朋に通いだしましたから、私とゆう子さん母子はゆう子さんがここ横浜療育医療センターに入所する5年前まではほとんど毎日出会っていたことになります。ゆう子さんのセンターへの入所はゆう子さんの状態が気管切開となりお母さんが高齢となってその介護が難しくなったという理由でした。ゆう子さんが入所してすぐ私も訪問の家と十愛療育会の理事長を兼務という形でセンターに週2回は通うことになりましたからゆう子さん母子との縁はきれないまま続きました。

お母さんはほとんど毎週、時には週2回ゆう子さんを訪ねてきました。お母さんはゆう子さんをストレッチャーに乗せセンター内をお散歩というのがいつものきまりで、途中必ず理事長室に立ち寄りました。その日、その時刻に私が室にいるとそこで3人がおしゃべり、時々廊下をふさいで、通行する人に迷惑をかけたものです。私が話しかけると必ずゆう子さんは笑ってくれました。お母さんはそのゆう子さんの笑顔を見ると必ず「ゆう子、先生に会えて嬉しいね」と言いました。そのお母さんの声にまたゆう子さんが笑う、いつも短いけど楽しい時間でした。

ゆう子さんのお母さんの死は私にとっても大きな衝撃でした。ゆう子さんの気持ちを思い涙がでました。ゆう子さんにはお父さんとお姉さんがお母さんの死を伝えました。ゆう子さんの笑顔がなくなりました。私が顔を覗き込んで「ゆう子さん」と声をかけても硬い表情のまま、笑顔にはなりません。岩本先生が「ゆう子さんを喜ばせることをしてあげたい。お母さんがして下さっていた車椅子での散歩をしてあげたい、と話しているのだけ」と心配して下さいました。ゆう子さんはお母さんが来なくなったこと、きっと不思議に思っているだろうな、もしかしたらもう会えなくなったことを感じているのだろうか、と彼女の気持ちを推し量りながら、ゆう子さんの笑顔が見たい・・・とゆう子さんの好きなことをあれこれ考えました。

思いついたのが鉄平君とのツウショットの写真です。かつて朋に通ってきているときのゆう子さんの笑顔はその明るさ、華やかさで評判でした。誰もがゆう子さんの笑顔に引きつけられました。職員の一人が「ゆう子・職業・笑顔」という名刺を作ったほどです。その笑顔に魅せられたのが鉄平君。彼は中学校2年生のとき朋にボランティアに来てゆう子さんの笑顔に出会い、初めて「自分を丸ごと受け入れてくれた」人に出会ったと言いました。それから鉄平君は高校を卒業するまで毎週のように朋に現れゆう子さんのボランティアをしながら、ゆう子さんに学校生活での出来事、試験のこと、つらいこと、嬉しいこと

等など、話していました。園庭で仲良く並んでいる写真、二人でサングラスをしての原宿でのデイトの写真、待望の真っ赤なバイクにゆう子さんを一番に乗せ嬉しそうに笑っている鉄平君とゆう子さんの写真が目には浮かびました。あの写真を見せたらどうだろうか、早速3枚の写真を大きくして彼女の目の前に立てかけられるようにして届けてほしいと朋の生田目施設長に頼みました。どうか鉄平君を思い出してほしい、と願いながら一枚の写真を彼女に見せました。すると彼女が笑ったのです。笑顔が出たのです。彼女の心の壺にはしっかり鉄平君が入って生きていたのです。

ゆう子さんの笑顔が消えて、加えて彼女の健康状態が下り坂であることを生田目さんには伝えていました。生田目さんは鉄平君が朋に現れて以来、彼が兄貴のように慕い、彼の結婚式に朋を代表して出席、スピーチもしています。生田目さんが鉄平君にゆう子さんの今の状態を電話で伝えてくれました。

先週3月8日、火曜日の午後2時ころ、受付の小川さんがかなりあわてた様子で「本に出ている人だと思います。面会に見えています」と事務所に入ってきました。えっ、まさか、鉄平？とこちらも慌てて事務室を出ると、なんとスゴイカッコウの鉄平君が事務室前の長いすに座っていました。「おー」と叫んで私と鉄平君はハグ。本当に10年振りの再会でした。それにしても洋服には派手な絵が描いてありヘアスタイルはまるで馬のたてがみ風、耳のイヤリングは昔より数が増えています。手にはゆう子さんが大好きなオレンジ色のバラの花束、早速ゆう子さんのところに案内しました。

ゆう子さん、鉄平君が来てくれたよ、と声をかけ鉄平君が「ゆう子さん、鉄平だよ、久しぶり」と彼女の顔を覗き込んだとたん、ゆう子さんの顔つきが変わり穏やかな笑顔がでたのです。「僕ふけたでしょう？分かる？28歳になったよ」と話しかける鉄平君の顔をじっと見つめてゆう子さんが微笑みます。お母さんが亡くなって以来のあの硬い無表情のゆう子さんの顔がまるで氷が解けたように柔らかくなったのです。「ゆう子さん、鉄平は変わらないよ。鉄平は鉄平だよ。ぶれてないよ。だから心配しないで。ちゃんとやってるよ」鉄平君が話しかけます。その顔からゆう子さんは一瞬も目を離しません。

私がここセンターの職員研修で朋時代のゆう子さんと鉄平君のエピソードを話したこともあり、鉄平君はセンターですでにちょっとした有名人です。看護課長の三田さんが近くの看護師さん、援助職員の方に声をかけゆう子さんをストレッチャーに乗せてくれました。写真を撮ろうと、鉄平君がストレッチャーを押してデイルームに行きました。じっと見つめあう二人の写真、鉄平君と一緒に優しく微笑むゆう子さん、何枚かの写真が撮れました。今日の前にある写真を見ると、ゆう子さんの笑顔に負けないほど鉄平君がいい顔で笑っています。「僕は変わってないよ。ぶれてないよ。大丈夫だよ」と言った鉄平君は本当だよ、と写真の中の彼の顔は語っています。久しぶりのゆう子さんの笑顔、みんな嬉しくて何人もゆう子さんの周りに集まり涙を浮かべました。生きているからこそ味わえた二人の幸せな時間、その場面に立ち会えた私たちも幸せだと感謝しました。

いつもはサチュレーションの値が時として90台になるゆう子さんの呼吸がなんとこの

日は夜まで100と安定していたそうです。主治医の岩本先生が「医療ももちろん大切だけど心も大切なよねー」とゆう子さんのこの日のハプニングを喜んでくださいました。そして「ゆう子さん、おかあさんが亡くなったこと分かってましたね」ともおっしゃいました。ゆう子さんに「死」ということへの理解はできないとしても、いつも来てくれていた母親が現れない状態が異常だということは分かっていたのだと思います。不安だったのだと思います。

鉄平君はまた来るね、とゆう子さんに何度も言っていました。中学校時代からの夢だったバイク関係の店を出し、バイクレースに出場し、レースの司会をし、多忙な毎日だそうですが、今度は彼が言う「嫁」を連れてゆう子さんに会いに来てくれたら嬉しいと思います。「ぶれてないよ。鉄平は大丈夫だよ」と言った鉄平君。「僕を丸ごと受け入れてくれたゆうこさんの笑顔が僕をずっと支えてくれた」とさよならをしながら玄関先で真剣な表情で話してくれました。

ゆう子さんと鉄平君物語の第二部です。